

古文書倶楽部

【発行】
秋田県公文書館
2009.11
第31号

今月のおすすめ古文書

赤穂義士事実聞書写(岡三二)

時代劇『忠臣蔵』のクライマックスは、元禄十五年(一七〇二)十二月十四日、赤穂浪士四十七人による吉良上野介邸への討ち入り場面です。「赤穂義士事実聞書写」にはこの事件に関する様々な資料が収録されています。

まず討ち入り翌日に吉田忠左衛門と富森助右衛門が幕府大目付へ提出した「指上候口上之覚」を見てみましょう。ここには赤穂浪士が吉良を討ち取る様子が記されています。

玄関より戸を打破、座敷へ通り候時、番人一人擲取案内為致、蝋燭など出させ火を灯、段々奥へ押入候

浪士は玄関から突入し、吉良が寝ていた部屋へ向かう。ところが吉良は「最早立逃候体にて夜之物など引ちらかし候。刀八其俣二有之」と逃げた後。しかし寝所は温かく「遠処へ八退れ候事二無之」と判断した浪士は方々を探し「寝間之奥二物置之よふなる処二人音」がするのを聞く。「鏝の石突にて戸を打破候得ば三人斗」潜んでいる。浪士は「上野介様にて八無御座候や、御出合可被成候」と物置に向かって言い、半弓を射込みます。そして…

未人有様二候得共一円無首候故 鏝を入探し候えは則出合申を、武林唯七と申者、十文字にて突候得共小脇指を抜合し候処を突止メ、間十次郎と申者太刀にて首を捕申候。

つまり吉良上野介は物置で武林唯七の十文字鏝に脇差で抵抗し、間十次郎に首を捕られたとあります。

当館閲覧室で「天皇陛下御在位二〇周年記念展示」を開催中。秋田県公文書館所蔵資料のうち、天皇陛下が御来県された際の資料を展示し、国民と共に歩まれてきた年月をふりかえります。どうぞ、お立ち寄りください。

ところが浪士は誰も吉良の顔を知らない。彼らは、高級そうな白無垢の夜着と脇差、そして一年前に浅野内匠頭が斬りつけた傷、更に捕まえた吉良邸の番人の証言から本人である旨の確認をします。

「赤穂義士事実聞書写」には、吉良の遺体についても「手疵両手之由志ケ処宛、左之股志ケ処、右之膝口志ケ処、コムラ志ケ処」とあります。

時代劇では、吉良は炭小屋から四十七士の前へ連れ出され首をはねられますが、資料の記述から浮かんでくる吉良の最後は、物置の中でまず足を刺され、動けなくなった後に首をとられたように読みとることができます。

『忠臣蔵』の現実、かなり凄惨な場面だったのかもしれない。

更に「赤穂義士事実聞書写」には、浪士が吉良邸から退去した時に置いていった物品リストもあります。

- 一 弓二張、内半弓志張弦切有之 物置に潜む吉良を射た弓?
 - 一 根矢甘本袋二人 討ち入り時、弓矢はあまり使わなかった?
 - 一 斧式挺 突入時に使用? 使用後は重いので置いていった?
- 他に刀や笛、手木、鎗などがあります。

ところで「赤穂義士事実聞書写」の最後の頁には、この資料は、当時江戸藩邸にいた刀番の平沢通有が藩主佐竹義処の命令で作成したものを文政二年(一八一九)に書き写したとあります。『平沢通有日記』(『秋田市歴史叢書』一、平成十九年)の解題に、平沢通有は元禄十五年十二月から元禄十七年二月まで江戸藩邸で刀番を勤め、江戸で赤穂浪士の吉良邸討ち入り事件を調べたとあります。

従って、秋田藩では赤穂浪士の討ち入り事件が起こった直後に、まず藩主が関心を持ち江戸藩邸の平沢通有に調べさせた。それを百年以上たった後に筆写した人物がいた、ということになります。平沢通有はどのような情報を集めたのか?皆様、どうぞご覧ください。(畑中康博)



お手持ちの古文書の解読を手伝います

「古文書相談日」始まる



「我が家に先祖から
伝わる古文書があるけ
ど、何と書いてあるか
分からない…」そんな
お悩みに、くずし字解
読の経験豊富な職員が
お応えします。

日時は毎月第二・第四火曜日、午後一時から
四時。事前に連絡のうえ、公文書館カウンター
にお越しください。(電話番号:0118(八六六)
八三〇一)

ただし、申し込み多数につき、相談時間はお
一人様三〇分とさせていただきます。また大量
の古文書の解読や芸術的に書かれた書画・掛軸
の解読、更に価格評価や鑑定はお断りしてあり
ます。

上の写真は、十一月十日の相談日にお越し
いただいた秋田市内在住のご婦人がお持ちになら
れた資料です。

内容は、藩主側近の膳番が仁井田村の多兵衛
に、藩主が食す魚を捕るための網を与えた、つ
まりは漁業権を認められたものです。しかも漁業権
を得たことで掛けられる役銀は免除されていま
す。それだけ藩主が食す魚を捕るといふことは、
特別だったのでしょ。

「この古文書の内容を孫に語り、我が家の誇
りを伝えていきたいです」とご婦人。
皆様の御相談をお待ちしています。

花押クイズ 誰のサインでしょう

花押とは、文書の最後に発給者が記すサイン
です。江戸時代、秋田藩では藩士が持っていた
古文書を藩庁で写すことが行われましたが、そ
の際花押だけを集めた資料も作りました。今回
の出題は「花押藪」(A二八〇 七一)か
ら、慶長五年(一六〇〇)関ヶ原の戦いにおけ
る西軍武将の花押を選びました。さて次の花押



を書いた人は誰でしょ
う。

第一問

立ち寄った羽柴秀吉
に、三杯のお茶を出し
て家臣に取り立てられ
た人物です。

第二問

関ヶ原の戦いで、
輿に乗って軍を指揮し
た人物として知られて
います。

第三問

下野国小山から関
ヶ原へ向かう徳川秀
忠軍に籠城戦をいど
み、ついには関ヶ原の
戦いに遅参させた人物
として有名です。

第四問

豊臣政権下で大老を
勤めました。今年の大
河ドラマの中心的な登
場人物でした。

答えは次号、古文書倶楽部
で。次号まで待ちきれな
い方は、「花押藪」をこ
覧ください。